入院生活を安全に過ごすために

看護部 リスクマネージャー　伊在井　妙　子

当院では、患者さんが安全に過ごすことができるよう様々なことに取り組んでいます。その中のひとつに、医療安全の取り組みがあり、各部門にリスクマネージャーと言われる担当者がいます。また、看護部ではリスクマネージャーの他に、病棟・外来・手術室にリンクナースと呼ばれる担当者を決め活動をしています。

今回は、医療安全推進週間の中で取り組んだことを紹介します。入院中の危険因子として、転倒転落・内服に関するエラー・チューブやドレーンに関するエラーが多くを占めています。中でも、転倒転落に関しては骨折のような重大事故につながる可能性もあり、入院患者さんやご家族に転倒転落のリスクと予防について知ってもらうことを目的に15分程のDVDの上映と予防のための簡単なリハビリの紹介を15分程で行いました。

参加した患者さん、ご家族の方は50名でした。DVD・リハビリ共にわかりやすい内容で、これから役立てていきたいとの反応もあり好評でした。入院患者さんやその家族への働きかけは今回初めてでしたが、入院生活のどこに危険が潜んでいるのか、どんなことに注意しなければならないのかを、少しでも理解し入院生活に活かしていけるよう今後も取り組んでいきたいと思います。

ここで、医療安全推進週間の時に掲示した内容の一部を紹介します。ご理解いただき、一緒に安全な環境を作って入院生活を過ごしていただきたいと思います。

★高いところの荷物は、無理せず、看護師にお伝え下さい。

★手が届かない時は、無理せずナースコールを。

★安全なベッドの高さは、足が床にしっかりつくことです。

入院していると筋力や体力の低下から、普段なにげなく行っていたことも、出来ないことがあります。
ベッドから落ちてケガをしないためにも、
看護師にご相談ください。

脳死下臓器移植シミュレーションを実施して

雪田　悦子

臓器移植のシミュレーションを行いました

臓器移植法が改正され半年が過ぎました。全国的には家族承諾での提供や、16歳以下の提供などが増えてきたことはテレビ等の報道でご存知のことと思います。

北海道は家族承諾での脳死臓器提供の総数の2割を占め、献腎移植においても全国平均の3.2倍の移植がなされています。北海道は全国で最も移植医療が行われているといえます。道東においては法改正後の提供はまだありませんが、今後臓器提供の意思表示をされる方が増えてくることは必至と考えます。そのような社会状況の中、私たち医療者は提供したいという意思を示されたとき、その意思を無駄にすることなく命のリレーができるよう力を尽くす必要があります。

当院ではまだ臓器提供は行われてはいませんが、このような状況に対して対応できるように院内の各職種が協力してシミュレーションを実施しました。実施に当たっては、実際の移植コーディネーターにも参加して頂き、更に移植医療に携わっている医師、市立釧路総合病院、釧路赤十字病院、孝仁会病院の方からもアドバイスを頂くことができました。

シミュレーションでは脳死下での提供を想定した家族への説明、臓器移植ネットワークへの連絡、移植の是非を判定する委員会の開催、実際の人の動きなどを確認し、モデルを使って脳死判定の実践を行いました。終了後のコーディネーターとのミーティングでは、参加者それぞれの立場からの質問・意見が多数あり、多くの示唆を頂く事ができました。

また、この時の様子はHBCテレビの「希望の医療」でも取り上げられ報道され、責任の重さを実感しました。

北海道は移植医療が進んではいますが、臓器提供意思表示カード（ドナーカード）の所持は15％という調査結果が出ています。ぜひ多くの方が臓器移植についてご家族と話し合い、「提供したい」「したくない」という意思を確かめ合う機会が持てるとよいと思います。

移植医療への取り組み

遊佐　純教

当院は、臓器提供病院です。患者さん本人の意思表示や、家族の申し出などがあり、臓器提供への道が開かれるのであれば、一緒にその意思を可能にすべく協力できる体制を整えなければいけません。

昨年秋に院内一丸となり、脳死下臓器提供へのシミュレーションを行いました。写真①は、脳幹反射を行う（脳死判定の一部）様子、（麻酔科：斉藤先生、神経内科：津坂先生、脳外科：磯部先生、院内移植コーディネーター：雪田師長）です。

また、北海道での移植医療を道民へ広く普及させるべく、北海道移植推進協議会があります。その支部として今年三月に釧路支部（旭川支部に次いで２番目の設置）が誕生しました。その支部長に当院、草野院長が就任いたしました。

写真②は、その当日に当院講堂で開催された「釧路市民公開講座・話そう大切な人と～みんなで考える臓器移植～」のパネルディスカッションの様子です。高校生の参加者に壇上へ上がっていただき、北大病院の臓器移植医療部嶋村先生の「入門・世界一!?分かる臓器移植」の場面です。

公開講座には市民など大雪の中約１６０名が参加されました。他に移植体験者のお話や市立釧路病院泌尿器科の新藤先生を含めたパネルディスカッションがありました。参加者の多くは「家に帰ったら家族と移植医療について話し合いをしたい。」とのアンケート結果がありました。

今後もかわらばんでは、移植医療についての話題を提供していければと思います。

▲写　真②

▲写　真①

編集後記

4月半ばの段階で、まだまだ寒くインフルエンザもまだ流行してます。体には気をつけて！今年度もかわらばんをよろしくお願いします。

神経内科　津坂和文

釧路もやっと春らしくなってきました。コンサドーレの春はまだきません。まずは一勝祈願。

薬剤部　梶原　徹

釧路もそろそろ桜の季節となりました。柳町公園の八重桜の開花が楽しみです。

栄養管理室　秋林千尋

やっと春らしくなってきました。新しい仲間も増えました。リフレッシュしていろいろなことにチャレンジしましょう。

看護師　伊在井　妙子

労災病院へ勤務して25年が過ぎました。人生の半分を労災病院と共に歩んできました。皆様に愛される病院になれるよう力を注ぎたいと思います。今年の我が家の野菜は枝豆に重点を置き取り組んでみます。

中央検査科　遊佐　純教

看護週間に合わせ 無料健康相談会を開催します

■5/19（土）　12:00～15:00

イオン釧路昭和店１階　クラフトパーク前　広場

- 血圧測定　●血糖測定　●骨密度測定
- 医師による健康相談　●乳がん相談　●ストレスチェック

など盛り沢山です。多数のご来場をお待ちしております。